

1 単元 つくって ためそう いろんなくぎ～多様な動きをつくる運動遊び～

2 指導の立場

<子どもの実態から>

子どもは、「1-2マットランド」において、マット上でいろいろな方向に転がったり、手で支えての体の保持や回転をしたりしてきた。そこでは、身の回りの動物やものを模倣しながらマットを使った運動遊びに取り組むことで、楽しみながら運動に取り組んできた。このような子どもが、自らの運動を振り返ったり、遊びの場を工夫したりすることで、より運動の楽しさに触れることができるだろう。

そこで、単元を構想するにあたっては、次のような教材を設定する。

<教材について>

本教材は、体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動き等を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、伸び伸びと体を動かしながら、様々な基本的な動きを身に付けることができる教材である。また、運動そのものの楽しさに触れることを目指し、自ら工夫しながら活動に取り組むことができる教材だと考える。子どもは自らの活動を人数や姿勢などを視点に、より楽しい遊びになるように、遊びの場を工夫しながら取り組むことで、様々な動きを習得していこう。ここでは、動きや遊び方のよさを伝え合いながら、運動を楽しもうとする子どもの姿を大切にしたい。そこで、指導にあたっては、次の点に留意する。

<指導上の留意点>

- 第一次では、様々な運動の場を体験し、遊びの場の工夫の視点を共有する活動を設定する。そうすることで、次時からの活動への見通しをもつことができるようにする。
- 第二次では、自分なりの楽しさを視点に、遊びの場を工夫する活動を設定する。そうすることで、動きを広げたり、高めたりしながら取り組むことができるようにする。
- 第二次では、工夫した遊びを共有する場を設定する。そうすることで、自分や友達の遊び方のよさを見付けながら、多様な動きに触れることができるようにする。

3 目標

- (1) 多様な動きをつくる運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、基本的な動きを身に付けることができるようにする。

[知識及び運動]

- (2) 多様な動きをつくる遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。

[思考力、判断力、表現力等]

- (3) 運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

[学びに向かう力、人間性等]

4 well-beingにつながる学びについて

本学園では、well-beingを「個人だけでなく、社会や地球環境まで含めた全体的に良好な状態」と捉えている。well-beingの実現には、教科等の本質に迫る授業で身に付けた資質・能力を、人生において自在に発揮できる子どもを育成することが必要不可欠である。そのためには、エージェンシー（変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力）の育成及び発揮が重要な課題であると考えます。

本学園の体育・保健体育部では、他者と協働しながら運動の楽しさや喜びを見出したり、感じたりする子どもを育成する授業が、教科の本質に迫る授業だと捉えている。また、エージェンシーを発揮している姿を、運動を楽しみながら、様々な場や規則を工夫し、動きを高めようとする姿だと捉えている。本単元においては、自分がより楽しいと思えるような場を創る活動を設定する。自分なりの遊びの楽しさを見出し、その場で楽しんだり、より楽しくしようと遊び場を工夫したりしている様相がエージェンシーを発揮した姿だと考えている。

このような学習を経験した子どもは、「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方を通して、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力が育成され、well-beingの実現につながるだろう。

5 指導と評価の計画（総時数 10時間）

次	学習活動・内容	エージェンシーを発揮するための手立て	知	思	主
一 ①	○ 運動の場を体験し、遊びの場の工夫の見直しをもつ ・運動の行い方 ・遊びの場の工夫の視点 ・場の準備や片づけ方 ・安全な遊び方	○ 様々な運動の場を体験し、遊びの場の工夫の視点を共有する活動を設定する。そうすることで、次時からの活動への見直しをもつことができるようにする。	① 観察		① ② 観察
二 ⑧ 本時 6 / 8	○ 運動を行い、お気に入りの場を探しながら、工夫の見直しをもつ ・運動の動きや楽しさ ・遊び場の工夫の見直し ● 工夫しながら遊ぶ ・遊びの場の工夫 ・動きの広がり ・動きの高まり ※移動、用具、バランス、力試しの順に2時間ずつ繰り返す	○ 自分なりの楽しさから、視点を定め、遊びの場を工夫する活動を設定することで、動きを広げたり、高めたりしながら取り組むことができるようにする。 ○ 工夫した遊びを共有する場を設定することで、自分や友達の遊び方を価値付けながら、様々な動きに触れることができるようにする。	① WS ② 観察	① ② 観察 WS	① ② 観察
三 ①	○ 自分のお気に入りの遊び場や、工夫を紹介する ・自分なりの楽しみ方 ・自他の運動の楽しみ方 ・運動の工夫			② 観察	① 観察

知識・運動	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 多様な動きをつくる運動遊びの行い方について、言ったり、実際に動いたりしている。 ② 基本的な動きをすることができる。	① 多様な動きをつくる遊びの場を工夫している。 ② 友達の動きや遊び方のよさを見付けたり、工夫した遊びの場を友達に伝えたりしている。	① 多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組もうとし、きまりを守り友達と仲よく運動をしようとしている。 ② 場や用具の安全を確かめている。

6 本時案 ー第2次・6時分ー

- (1) 主眼 バランスを保つ運動遊びが楽しくなるように工夫し試し合う活動を通して、場の工夫を伝えたり、友達の遊び方のよさを見付けたりすることができる。
- (2) 準備 平均台、マット、ボール、ラバーライン、バランスクッション・ボード
- (3) 学習の展開

学習活動・内容（発問）	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
<p>1 前時の学習を振り返り、本時の学習の見通しをもつ</p> <p>どのように遊びの場を工夫するか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動の見通し ・場の工夫の視点 	<p>ア 前の時間には、バランスをとるような遊びをしたね</p> <p>イ 遊びは、難しくしたり、簡単にしたりできたよね</p> <p>ウ 遊びの場を工夫する時には、人数や使うものなどを変えればよかったね</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの場と、場の工夫の視点を共有する。そうすることで、見通しをもち学習に取り組むことができるようにする 	5
<p>2 遊びの場を工夫しながら、運動をする</p> <p>自分のお気に入りの遊びの場をどう工夫するか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの楽しみ方 ・遊びの場の工夫 ・動きの広がり 	<p>ア 平均台から落ちないように歩いたり、マットで揺れたり、バランスが取れるか取れないかが楽しいね</p> <p>イ 平均台の上を歩くのが楽しかったな。手を着きながらでも渡りきれるか試してみよう</p> <p>ウ マットの上で足を持って転がったり、戻ったりするのが難しかったな。手を離して勢いをつけながらやってみたいな</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの楽しさを基に、遊びの場を工夫させる。そうすることで、多様な動きに触れることができるようにする 	35
<p>友達はどうな遊びの場の工夫をしているか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他の取組の価値付け ・動きの高まり 	<p>ア 平均台を渡る時に、ボールを手や頭に乘せて、落ちないようにしているのが楽しそうだな</p> <p>イ 友達と背中を合わせて立つ遊びを、人数を増やしてもできるのか試したいね</p> <p>ウ 相手のバランスを崩す遊びで、手押し相撲を片足にしたり、ボールを使ったりしていたよ</p> <p>エ 簡単にしたり、難しくしたり、友達の工夫がとても面白かったな</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの場の工夫をそれぞれの場で共有する。そうすることで、自他の取組を価値付けながら、多様な動きに触れることができるようにする ・お気に入りの遊びの工夫をタブレットで撮影し蓄積することで、単元の終末で紹介をする際に、自他の取組を価値付けることができるようにする 	
<p>3 自他の遊びの場の工夫や、遊び方のよさを振り返る</p> <p>自分や友達の遊びの場はどこが楽しかったか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動への関わり ・自他の取組の価値付け 	<p>ア 僕は、平均台でよりバランスがとりにくくなるような工夫をしてみたよ</p> <p>イ 友達はマットの場の工夫をしたんだね。どんな運動になるか試してみたいな</p> <p>ウ 友達が難しくするように工夫をしたから、何度も挑戦できて楽しかったな</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動をより楽しくするために行った遊びの場の工夫を紹介する活動を設定する。そうすることで、自他の運動の行い方のよさに気付くことができるようにする 	45


(4) 評価規準と方法

より楽しくするために、人数や姿勢、用具などを変更し、遊びの場を工夫しながら運動に取り組み、それらの工夫を友達に伝えたり、友達の遊び方のよさを見付けたりすることができたか、発言やワークシートからみとる。


< 参考資料・メモ >

○場の設定

ホワイトボード



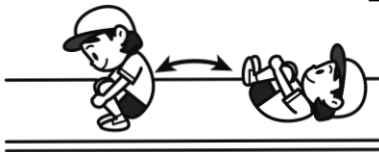
ものの上を
渡れるかどうか




落ちずに渡れるかどうか

用具置き場


- ・ボール
- ・ラバーライン
- ・バランスボード
- ・バランスクッション等



寝転んだり，起き上がった
りできるかどうか



立てるかどうか



倒れないように姿勢を保持
できるかどうか

1 単元 けさ固め・横四方固めからの逃げ方 ～柔道「抑え技」～

2 指導の立場

<子どもの実態から>

子どもは、マット運動において、自身の体を使って技を行う経験をしている。そこでは、自己や仲間の課題を様々な練習方法で解決したり、他者と関わることで技能の向上が促されることに気付いたりしてきた。このような子どもが、個人の技能向上を目指すマット運動に比べ、相手がいないと成り立たない柔道の学習に取り組めば、さらに他者と関わり合いながら課題を解決し、授業を創っていく姿が見られるだろう。

そこで、単元を構想するにあたっては、次のような教材を設定する。

<教材について>

本教材は、固め技を用いて相手を抑え、「一本」を目指して勝敗を競い合い、互いに高め合う武道である。また、相手を尊重する心を示す礼儀が重んじられる。子どもは、単元を通じて他者と関わり合う授業の中で、相手のことを思いやる心を育みながら、柔道の楽しさを感じていくだろう。ここでは、仲間との「する・みる・支える・知る」の多様な関わりを通して、授業を創っていく姿を大切にしたい。

そこで、指導にあたっては、次の点に留意する。

<指導上の留意点>

- 第一次では、簡単な動作や動きを教え合う活動を設定する。そうすることで、他者と常に関わり合いながら授業が進んでいくことを意識できるようにする。
- 第二次では、手本動画と自分たちの動きとを確認しながら技を身に付ける活動や抑え技から逃げる方法を探る活動を設定する。そうすることで、子どもが主体的に技の習得を目指すことができるようにしたり、課題解決のために、自分たちで答えを導き出したりすることができるようにする。
- 第三次では、簡易の試合の場を設定する。そうすることで、学習してきた内容を基に、攻防の仕方を考え、自分たちで試合の運営・判定を行うことができるようにする。

3 目標

- (1) 柔道について、技ができる楽しさや喜びを味わい、武道の特性や成り立ち、技術の名称や行い方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて、抑えるなどの簡易な攻防をすることができるようにする。 (知識及び技能)
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (思考力,判断力,表現力等)
- (3) 柔道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや健康・安全に気を配ることができるようにする。 (学びに向かう力,人間性)

4 well-being につながる学びについて

本学園では、well-being を「個人だけでなく、社会や地球環境まで含めた全体的に良好な状態」と捉えている。well-being の実現には、教科等の本質に迫る授業で身に付けた資質・能力を、人生において自在に発揮できる子どもを育成することが必要不可欠である。そのためには、エージェンシー（変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力）の育成及び発揮が重要な課題であると考えている。

本学園の体育・保健体育部では、他者と協働しながら運動の楽しさや喜びを見いだしたり感じたりする子どもを育成する授業が、教科の本質に迫る授業だと捉えている。また、エージェンシーを発揮している姿を、他者との関わり合いの中で、課題解決に向けて思考判断し、伝え合う中で、自分たちで授業を創っていく姿だと捉えている。本單元においては、教師主導の授業から段階を追って子ども主導による意思決定を行えるような場を設定する。道着を着るところから簡易の試合までを、他者と関わり合いながら教え合ったり課題を解決したりしながら、試合ができるところまで自分たちで創っていく様相がエージェンシーを発揮した姿だと考えている。

このような学習を経験した子どもは、他者と「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方を通して、その時々 conditions に合わせた運動の仕方を考え、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力が育つようになり、well-being の実現につながるだろう。

5 指導と評価の計画（総時数 8 時間）

次	学習活動・内容	エージェンシーを発揮するための手立て	知	技	思	主
一 ②	○ 柔道の特性や成り立ち、伝統的な考え方などを理解するとともに、作法や道着の着方、学習の進め方などを確認する	○ 作法や道着の着方について教え合う活動を通して、他者と常に関わり合いながら授業が進んでいくことを意識づけるようにする				① 観察
二 ⑤ 本時 5 / 5	○ 班学習を行うことで、受け身について理解する（タブレット端末の活用） ・後ろ受け身 ・横受け身 ○ 抑え込みの条件を確認し、班学習を行うことで、抑え技について理解する ・袈裟固め ・横四方固め ● 抑え込みの状態からどのようにして逃げるか探る	○ 受け身や抑え技についてタブレット端末で仲間と確認しながら動画に動きを近づけていく活動を通して、教師主導の活動から子ども主導の活動へと移行し、子ども自らが主体的に技を習得することができるようにする ○ 習得した技から逃げる方法を探る活動を設定することで、自分たちで答えを導き出し、課題解決を図ることができるようにする	① 学習 カード 観察	① ② 観察 動画	① ② ③ 学習 カード 観察	② 観察 ③ 学習 カード 観察
三 ①	○ 学習した抑え技で、審判をつけて試合の攻防を行う ・仰向けの状態 ・背中合わせ ・膝立ち	○ 習った技、見つけた逃げ方を基に試合を行ったり、審判を行ったりする	② 学習 カード 観察	③ 観察 動画		

6 本時案 —第二次・5時分—

- (1) 主眼 取から「逃げる」方法を班で探り，発表する活動を通して，技をかけられたときの自分にとって効果的な逃げ方を見付けることができる。
- (2) 準備 プロジェクター，タブレット端末，道着
- (3) 学習の展開

学習活動・内容（発問）	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
<p>1 抑え込みの条件を確認する</p> <p>抑え込みの条件とは何だっただろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> 抑え込みの条件 <p>2 抑え技から逃げる方法を探る</p> <p>抑えられた状態から，受はどのようにして「逃げる」か</p> <ul style="list-style-type: none"> けさ固めから逃げる方法 横四方固めから逃げる方法 	<p>ア 相手を上半身でおさえる</p> <p>イ 相手と向かい合う</p> <p>ウ 相手を仰向けにする</p> <p>エ 相手に乗っかっていたらいい</p> <p>オ 相手に束縛されてなかったらよい</p> <p>ア ひたすら動いて抑えられている状態を崩せば逃げられるのではないか</p> <p>イ 抑えている相手の肩を手で押して隙間を作ったら逃げられるのではないか</p> <p>ウ 何とかしてうつ伏せになったら，条件には当てはまらなくなるのではないか</p> <p>エ どうにかして相手をひっくり返すことで逃げられるのではないか</p> <p>オ それぞれの技で逃げる方法は違うのではないか</p> <p>カ 男子は力で逃げられるかもしれないけど，女子は力では難しそうだから何かよい方法はないかな</p> <p>キ 体格差がある場合はどうしたらよいのかな</p>	<ul style="list-style-type: none"> 抑え技の形と抑え込みの条件の復習及び確認をすることで，次の発問について考えやすくする <p><抑え込みの条件></p> <ul style="list-style-type: none"> ①相手を仰向けにする ②相手の上で向かい合う ③相手の束縛を受けない <ul style="list-style-type: none"> けさ固めを考える班と横四方固めを考える班に分けることで，偏りがないようにする 男女混合班にすることで，違う視点から考えることができるようにする 発表に向けて実演する人と説明をする人など役割分担をさせることで，スムーズな発表につなげることができるようにする 意見が出ないようであれば，「逃げる＝技がかかっていない，抑え込めていないこと」であることを補足説明することで，抑え込みの条件の逆を考えればよいことに気付くことができるようにする 多くの逃げ方を考えた班には，「20秒以内に逃げるのが可能か」と問うことで，試合を意識させ，よい逃げ方を考えることができるようにする 	<p>15</p>
<p>3 各班が考えた方法を発表する</p> <p>どの班の逃げ方が自分にとって効果的だろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> 抑え技の逃げ方 次時への見通し 	<p><けさ固め></p> <p>ア 相手の脚に脚をからめる</p> <p>イ うつ伏せになる</p> <p>ウ 腹筋で返す</p> <p>エ てっぽう返し</p> <p><横四方固め></p> <p>ア うつ伏せになる</p> <p>イ 相手の脚に脚をからめる</p> <p>ウ 体を動かしてひたすら逃げ回る</p> <p>エ 相手をひっくり返す</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発表者の意見を聞きながら，自分にとって効果的だと思う方法や自分ならできそうだと思う方法を記録することで，次時の簡易試合に向けての見通しをもつことができるようにする 	<p>35</p> <p>50</p>

(4) 評価規準と方法

抑え込みの条件を基に，取から「逃げる」方法を班で探り，発表をする活動を通して，技をかけられたときの逃げ方を自己で考え，仲間と解決法を見付けることができたか，発言や学習カードからみとる。

<メモ>

知識・技能		思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 武道には特性や成り立ち、技には名称があり、それぞれの技を身に付けるための技術的なポイントがあることについて、言ったり書き出したりしている</p> <p>② 試合の行い方にはごく簡単な試合におけるルール、審判及び運営の仕方があることについて、言ったり書き出したりしている</p>	<p>① 後ろ受け身では、あごを引き、頭をあげ、両方の腕全体で畳を強くたたくことができる。横受け身では、体を横に向け下側の脚を前方に、上側の脚を後方にして、両脚と一方の腕全体で畳を強くたたくことができる</p> <p>② 取は、「抑え込みの条件」を満たして相手を抑えることができる</p> <p>③ 取はけさ固めや横四方固めで相手を抑えることができる。受はけさ固めや横四方固めで抑えられた状態から、相手を体側や頭方向に返すことができる</p>	<p>① 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている</p> <p>② 体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえ、仲間とともに楽しむための練習や簡易な試合を行う方法を見付け、仲間に伝えている</p> <p>③ 抑え込みの条件を基に、相手から逃げる方法を自己で考え、仲間と協力しながら解決法を見付けている</p>	<p>① 柔道の学習に積極的に取り組み、仲間と関わり合いながら、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている</p> <p>② 禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している</p> <p>③ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている</p>